

会 議 概 要

第 1 回 【山直北・城東校区】学校適正化に向けた校区懇談会

《開催日》令和4年6月1日（水曜日）

《時 間》19：30～21：00

《場 所》山直地区公民館 講座室 1

《参加者》地域住民：9名 教育委員会事務局：6名

<議題等>

- 1 開会
- 2 事務局挨拶
- 3 懇談会参加者・事務局の紹介
- 4 議題
 - (1) 事務局からの説明事項について
 - (2) 意見交換

事務局	(別添資料に沿って内容を説明)
参加者	資料に記載のある児童数推計について、いつ時点の、どのデータから算出したものなのか。
事務局	<p>令和4年3月31日時点での住民基本台帳から、町ごと、年齢ごとのデータを抽出し、例えばその時点での0歳児が、令和10年4月には今住んでいる地域の小学校に入学するというように、地域間での移動を行わずに年齢を重ねていくという想定のもと、各校区に数値を落とし込んだ上で算出したものになる。</p> <p>令和11年度～15年度については、町ごと児童の実数からは算出ができないため、町ごとに直近3年間の出生数（0歳児から2歳児の数）を平均した数値を当てはめることで、推計期間を延長している。</p>
参加者	<p>三田町では新たな交通拠点完成する予定であり、それに伴って市街化区域の拡大も予定していると伺っている。</p> <p>摩湯町においても、町の魅力向上を通じて、住民を増加させる方策を考えている。城東小学校においては、今年度の1年生で2学級となっているが、これは摩湯町の新しい住民が関与している。その点についてどう考えているか。</p>

事務局	<p>確かに、推計値の算出に用いた住民基本台帳上のデータを見ていると、市全体の人口減少が課題となる中、摩湯町においては、人口が大きく増加しているとまではいえないものの、減少傾向はみられていない。</p>
参加者	<p>各地域で魅力づくりを進めていく上での、岸和田市としての努力についてはどうか。</p>
事務局	<p>まちの魅力向上や、人口増加に向けた施策については、これまで岸和田市として取り組んできたところではあるが、現在も、地域ごとのまちづくりについて、市長部局の担当課が各地域に入りながら、地域の皆様と協議を進めているところ。</p> <p>そのような中ではあるが、現状の推計値からは、城東小学校の小規模化が解消されることは難しいのではないかと考えている。</p>
参加者	<p>摩湯町での今後の取組として、新しい住民に来てもらう方策を検討しているところ。</p> <p>摩湯町以外の町でも、そのようなことを考えているのではないかと思う。そうでなければ、小学校の再編以前に、町自体が衰退してしまう恐れがある。</p>
事務局	<p>各地域のまちづくりに関するご意見だと捉えており、教育委員会だけではなく、市長部局も含めて協議すべき事項だと思う。</p>
参加者	<p>隣接する山直中学校との小中一貫教育を行うということだが、現在の山直中学校における、学力面やスポーツ面といった魅力についてはどう捉えているか。</p>
事務局	<p>学力面についていえば、岸和田市全体として課題を抱えている中で、生徒指導面と合わせて、市全体で改善に向けて取り組んでいるところ。山直中学校としては、伝統があることと、部活動が盛んに行われていることが魅力といえるのではないかと思う。</p> <p>なお、小中一貫教育については山直中学校区だけで行うものではなく、学校が隣接しているか否かに限らず、市の中学校区全体で取り組んでいくものである。</p>

参加者	<p>中学校に進学する際、私立中学校へ進学する子どもが多いと思う。小中一貫とはいうが、そのような場合どうなるのか。</p>
事務局	<p>市として小中一貫教育に取り組むからといって、必ず地域の公立中学校に進学しなければならないといったことではない。</p> <p>また、小学校・中学校でそれぞれ学ぶ内容は学習指導要領により定められているため、それを飛び越え、例えば（仮称）山直小学校の6年生が中学1年生の内容を学ぶといったものではない。</p>
参加者	<p>学校が再編された場合、通学環境の変化が生じる。資料にも、見守り活動の強化といったことが記載されているが、実際には子どもたちの下校時間が異なる夕方のほうが危険。そのような中、例えば小学校高学年での50分授業や、部活動への参加といったことが実施された場合、下校時間が更にバラバラになる恐れがある。</p> <p>また、資料には磯之上山直線を渡る危険について記載されているが、実際にはスーパーサンエーの前がより危険な箇所だと考えている。そういった通学の安全についてコントロールできるのか。</p>
事務局	<p>ご指摘いただいた箇所を含めた、通学路の危険箇所については、ソフト面だけではなく、ハード面も含めた両面による安全確保が大切だと捉えているため、教育委員会だけではなく、市長部局の担当課や警察などの関係機関と十分に連携する必要がある。</p> <p>学校再編によって子どもたちの安心・安全が損なわれるといったことがあってはならないため、その点についてはしっかりと対応する。</p>
参加者	<p>校区懇談会に出席するにあたり、いろいろな方からお話を伺ったが、正直いえば、学校の統合に賛成する方はいなかった。やはり、先ほどから議論されている通学路をはじめ、心配な点が多いからだと思う。</p> <p>学力の保障についても、仮に（仮称）山直小学校として統合再編された場合、非常に大きな規模の学校になる。少人数による教育で学力を保障することが望ましいと考えているため、（仮称）山直小学校の規模できめ細かな教育が可能なのかという点についても心配している。</p>
事務局	<p>1学級あたりの規模については、これまで40人学級編制だったが、国により順次35人学級編制が導入され、令和7年度には小学校全学年で35人学級編制となる。教育委員会としても、学級規模については更なる</p>

事務局	<p>少人数化が望ましいと考えており、国や府に対して要望を続けているところ。</p> <p>一方、適正化の取組については、学校全体の規模が小規模化していることを課題と捉え、その解消を図っていくものであり、学校規模の適正化に向けては学校の統合再編が必要だと考えている。</p> <p>本市の学力と学校規模との関係性について、明確な相関関係が出ているわけではない。小規模校で学力に課題を抱える学校もあれば、大規模校で学力が高い学校もある。</p> <p>確かな学力の定着については、やはり子どもたちのことを第一に考えた授業づくりが大切ではないかと捉えており、現在、教員のスキルアップ等に取り組んでいるところ。学校規模に関わらず、どの学校でも子どもたちが安心して学習に取り組める環境づくりに努めていく。</p>
事務局	<p>小規模校での勤務経験を踏まえると、児童数が少ないことにより、教員から子どもたち1人1人の顔がよく見えるという良さがあった。一方で、6年間クラス替えがないことが子どもたちの成長にとってどうなのかという疑念もある。クラス替えにより新たな人間関係を構築していくことは、子どもたちの成長にとって大切なことだと捉えている。</p> <p>教育委員会としては、どのような環境が子どもの成長にとって望ましいのかという視点を重視した上で、今回の実施計画（案）の策定に至っている。</p>
参加者	<p>今回の取組について、城東小学校は学年あたり1学級ということで話が進んでいるように感じているが、実際には2学級の学年も生じている。そうならば、当然クラス替えも可能だと思う。</p>
事務局	<p>2学級あればクラス替えは可能となるが、学校規模が小さい場合、運動会といった学校行事にも制限が生じる。適正な学校規模であれば、学校行事を行う上でも柔軟に取り組むことができる。</p>
参加者	<p>それならば、例えば運動会を城東小学校と山直北小学校とで合同で行うといった方策も考えられると思う。現時点では、単学級だから再編という方向性ありきで話を進められているように感じられるが、複数の学級があっても統合するのかどうかといったことも話し合うべきではないか。</p>

事務局	<p>学校規模について、国においては、1校あたり12～18学級、小学校では学年あたり2～3学級、中学校では学年あたり4～6学級が望ましいという目安を示している。</p> <p>本市においても、独自に学識経験者や保護者、地域住民で構成された審議会を設けて議論を重ねたり、教員・保護者・児童生徒を対象としたアンケート調査を実施したりする中で、1校あたり12～18学級が望ましいという方針を定めているところ。</p>
参加者	<p>老朽化した校舎について、例えば学校規模の大きい学校を優先して改修するといったことはあるのか。</p>
事務局	<p>子どもたちの教育活動を保障することは、学校規模に関わらず大切なことだと捉えているため、老朽化した校舎の改修もしくは改築については、小規模校・大規模校といった区分に関わらず取り組んでいく。</p> <p>なお、新たな学校の開校時期について補足すると、仮に地域の皆様と方向性が一致したとして、その時点から（仮称）学校開校準備委員会を設置し、校歌や校章、制服の検討などを行うとともに、具体的な校舎のレイアウト等を定めた上で、設計・施工段階に入っていくため、開校準備委員会の設置から実際の開校までは5年程度必要だと考えている。よって、最速でも令和10年4月が新たな学校の開校時期だと想定している。</p>
参加者	<p>再編に合意する・しないというのは、校区懇談会参加者の判断によることになるのか。</p>
事務局	<p>校区懇談会は意見交換の場と捉えており、意思決定を行う場ではないため、参加者の皆様のご意見も踏まえつつ、最終的には市と教育委員会で判断したいと考えている。</p>
参加者	<p>校区懇談会参加者が最後まで再編に反対であれば、この取組を進めないということか。</p>
事務局	<p>皆様が不安に思われる点や、課題と考える点について議論を重ねながら、子どもたちにとってより良い教育環境はどのようなものなのかという点について方向性を見出していきたい。</p> <p>皆様のご意見を無視して、強行的に取組を進めるといった姿勢ではないが、地域によっては、複数の学年を1つの学級に編制する複式学級の発生</p>

<p>参加者</p>	<p>が将来的にみえてくる学校もある中で、話し合いについては現時点から行う必要があると考えている。</p> <p>全学年単学級であれば、統合は致し方ないという想いもあるが、通学路に関しては、現時点でも岸和田三田郵便局付近など、カラー舗装こそされているがその幅が僅かであり、時間帯によっては危険な状態になっている箇所がある。一方通行にすべきではないかと思う。</p> <p>学校を統合するより先に、警察や地域と協議の上、カラー舗装だけではなく、祭礼時に取り外しも可能なバリカー（車止め）の設置といった安全確保の方策を実施して見せたほうがよいのではないか。</p>
<p>事務局</p>	<p>現時点での通学路に対するご指摘であるため、通学路の所管課に対して早速申し伝える。</p>
<p>参加者</p>	<p>具体的な対策等が見えないため、不安を抱く方が多いのだと思う。</p> <p>学校がなくなるということは、地域にとっては防災やコミュニティの面で重大なことだと思う。現在は城東小学校があるから地域のつながりを維持できているという点もあるので、学校が統合再編された場合にどうなるのだろうという不安はある。防災面では学校が避難所になっている中、例えば、仮に学校が閉校になったとしてもどこかの校舎を残して避難所機能を維持するといった具体的な対策が示されれば、安心できる部分もあるかと思うが。</p>
<p>事務局</p>	<p>小学校が地域コミュニティ活動上の核となってきたということは、十分に認識している。これまでも各地域で住民の皆様が主体的に活動される中、補助金の交付など、行政としてサポートに努めてきたところであり、仮に地域の小学校が閉校になったとしても、例えば旧の小学校区を単位として地域活動を継続するという判断をされた場合のサポート体制については、維持していくことが望ましいと考えている。教育委員会だけではなく、地域コミュニティ担当課の判断にもよるが、学校の再編に合わせてコミュニティ活動単位も再編を強いるという考えはない。</p> <p>防災面についても、市全体での避難所のあり方は危機管理担当課が判断することにはなるが、学校が閉校となった場合でも、例えば引き続き閉校となった後の学校施設を避難所として指定するといったことを含めて、十分な話し合いの上で検討していきたい。</p> <p>跡地活用の方策については、学校再編が確定していない段階で行政側か</p>

	<p>ら一方的に具体的方策をお示しするのではなく、まず再編の方向性を定め、そこから跡地活用についても地域の皆様のご意見を踏まえながら、方向性を定めていきたいと考えている。</p>
参加者	<p>城東小学校が開校する前は、摩湯町からも山直北小学校へ通学していた。ただし、当時と現在では気候が異なる。そのような中、小学1年生がランドセルを背負って相当の距離を通学することになるため、体力面で心配する声も地域から寄せられている。</p>
事務局	<p>通学距離の延長について調査するため、東ヶ丘町の一番奥、三田町との町境付近から城東小学校及び山直北小学校までの道路を実際に歩いてGPSで距離を計測したところ、約200mの距離延長が生じるという結果であった。</p> <p>このように、延長される通学距離自体はさほど大きくないものの、通るルートは従来と異なるため、これまでのご意見も踏まえ、安全確保に向けた取組は必要だと認識している。</p>
事務局	<p>身体の小さな小学1年生が重たいランドセルを背負って通学することへの不安やご心配は理解する。一方で近年は、宿題に用いない教科書等は学校へ置いて帰ってもよいといったように、通学による子どもたちの身体的負担を軽減する方向に進んできている。</p>
参加者	<p>ニュース等で、統合等により小学校が地域からなくなった結果、地域の衰退につながったという話も聞くので、そうならないように、地域からもそうだが、行政からも様々な案を提示いただきたい。</p>
参加者	<p>幼稚園はどうなるのか。</p>
事務局	<p>幼稚園での定員割れと、保育所での待機児童が大きな課題となっている中、公立幼稚園及び保育所の再編についても取組を進めているところ。「岸和田市立幼稚園及び保育所再編個別計画【前期計画】」では、山直北幼稚園・城東幼稚園・山直北保育所について、中～後期（令和7～12年度）にて民間認定こども園への再編予定という旨を記載している。</p> <p>なお、本市の公立幼稚園は多くが小学校に併設しているが、仮に小学校が閉校となった場合、幼稚園だけが残るということは想定していない。</p>

参加者	<p>恐らく、山直北小学校の保護者のうち大勢の方は、学校の場所が変わるわけではないため、今回の再編についてあまり大きな関心を持っていないと思われる。一方で、学校が閉校になる地域の方に対するケアを十分に行わなければ理解を得ることは難しいと思う。</p> <p>特に、学校が非常に遠くなる山直南校区からはバス通学になると思うので、乗り遅れた場合どうするのかということや、授業参観のときに保護者が学校へ行くのも遠くなるといったこと、そして通学上の安全確保などの不安があると思う。また、新たに地域に住む方が家を探す際には、まず小学校の場所を重視するということもあると思われる。再編に際しては、そういった様々な点に対するケアが大切。</p>
参加者	<p>周りで聞き取る中で、学校の統合再編に賛成する人はいなかった。そのあたり、行政側の感覚との間でズレが生じているのではないかという不安はある。</p> <p>通学路のハード面を検討する中で一点加えていただきたいのが、磯之上山直線を渡る信号が青から赤に変わるのが早すぎるということ。車の交通量も多く、いつも危険だと感じている。</p>
事務局	<p>信号については警察も含めた協議になると認識している。教育委員会として、通学路の安全対策については、学校の再編にあたり必要なことだという認識のもと、協議や要望を行っていきたい。</p>
事務局	<p>本日は多くのご意見をいただき、感謝する。いただいたご意見については、一度持ち帰り整理した上で、次回懇談会での話し合いにつなげていきたい。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>